



アドアーズ株式会社 2012年3月期 第2四半期決算説明会



2011年11月30日(水)

アドアーズは、夢と感動あふれる“遊空間”の提供を通じて、
人々にうるおいと笑顔を運びます。

「あなたの笑顔のために」 ——

Create Happiness! それが私達の願いです。

JASDAQ :4712

This program is brought to you by Corporate planning division

目次

1. 会社概要	P.02
2. 2012年3月期 第2四半期 実績	P.03
(1) 新体制について／方針総括	P.04
(2) 会社実績／PL	P.06
(3) 財務戦略について(BS・CF)	P.09
(4) セグメント別業績推移	P.12
3. 2012年3月期 下期計画・方針	P.18
4. その他	P.21

※本資料内の“AM”は“アミューズメント”、“NJHD”は“株式会社ネクストジャパンホールディングス”の略です

1. 会社概要

会社概要

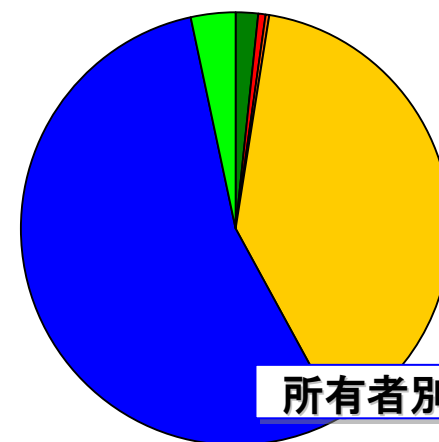
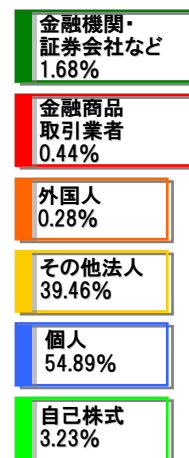
商号	アドアーズ株式会社
設立	1967年12月
本社所在地	東京都中央区日本橋馬喰町2-1-3
資本金	44億5百万円
発行済株式数	124,557,592株 (※)
上場取引所	大阪証券取引所 JASDAQスタンダード (1998年店頭公開)
従業員数	359名(社員) 697名(アルバイト等)
事業内容	アミューズメント施設の運営等 各種施設的设计施工

※1. 平成23年5月24日「第三者割当による新株式発行および主要株主である筆頭株主の異動に関するお知らせ」のとおり、株式会社ネクストジャパンホールディングスを引受先とした第三者割当による普通株式15,000,000株の新株式発行(発行期日:平成23年6月28日)を実施いたしました。
 ※2. 平成23年6月28日付で、株式会社ネクストジャパンホールディングスから第三者割当の払込みを受けました。これにより、当第2四半期累計期間において資本金が405,000千円、資本準備金が405,000千円増加しております

大株主の状況

(2011年9月30日現在)

株主名	所有株式数	持株比率
株式会社ネクストジャパンホールディングス	41,054,000	32.95%
GF投資ファンド投資事業有限責任組合	41,000,000	32.91%
鈴木 昭作	4,092,972	3.28%
アドアーズ株式会社(自己株式)	4,026,944	3.23%
株式会社スクウェア・エニックス・ホールディングス	3,420,000	2.74%
岡田 浩明	1,212,000	0.97%
星 久	1,189,848	0.95%
アドアーズ従業員持株会	1,094,930	0.87%
株式会社ジョイントマスター	1,066,000	0.85%
株式会社ユニバーサルエンターテインメント	824,000	0.66%



所有者別分布状況

※平成23年5月24日付「第三者割当による新株式発行および主要株主である筆頭株主の異動に関するお知らせ」のとおり、同年6月28日を発行期日として、15,000,000株の新株式発行に伴い、筆頭株主の異動が発生いたします。

沿革

年	月	事項
1967年	12月	輸入娯楽機を中心としたゲーム機設置業を目的として、株式会社シグマを設立
1971年	12月	当社1号店『ゲームファンタジアミラノ店』開設(現存)
1972年	7月	ゲーム機器の自社開発を開始(現在は開発、製造、販売すべてを他社へ譲渡)
1983年	10月	ゲーミングマシン製造業者ライセンスを取得 (株式公開準備のため1991年5月に返上)
1985年	7月	当時の室内アミューズメント施設としては世界最大級の床面積を誇る 『ゲームファンタジアサンシャイン店』開設(現存)
1998年	11月	日本証券業協会に株式を店頭登録(現ジャスダック証券取引所)
2000年	10月	株式会社シグマ(存続会社)、株式会社テクニカルマネージメント、 株式会社環デザインの3社が合併し、社名をアドアーズ株式会社に変更
2006年	3月	株式異動によりGF投資ファンド投資事業有限責任組合が筆頭株主となる(2011年11月現在、第2位株主)
2007年	8月	株式会社ユニバーサルエンターテインメント(旧アルゼ株式会社)の保有する1,800万株の株式を自己株式にて 取得(うち900万株は消却 / 同社の当社議決権比率が10%以下となり、主要株主から外れる)
2009年	5月	株式会社ネクストジャパンホールディングスとの資本・業務提携発表 互いの発行済株式の9.9%を持ち合い、両社の協業体制の構築を目指す
	9月	株式会社ネクストジャパンホールディングスとの資本・業務提携の強化を発表 役員の相互派遣のほか、資本提携を強化
	3月	第三者割当による株式会社ネクストジャパンホールディングスへの自己株式の処分を実施 同社が当社第2位株主となる
2010年	5月	株式分割(1株につき2株の割合)の実施
	6月	マカオへ子会社設立(名称:ADORES MACAU LIMITED 当社100%出資)
2011年	3月	東北地方太平洋沖地震発生(弊社2カ店被災:AD仙台一番町店、AD仙台富谷店)
	4月	特別損失の計上、ならびに業績予想の修正を発表 株式会社ゲオと「カプセル自販機に関する業務委託」契約を締結
	5月	第三者割当による新株式発行および主要株主である筆頭株主の異動を発表 藤澤代表取締役会長をはじめとする新経営体制の開始
	6月	資本提携先である株式会社ネクストジャパンホールディングスへ普通株式1,500万株(総額8億1,000万円)の 第三者割当増資を実施。同社が発行済株式総数の32.95%を保有する筆頭株主となる
	9月	当社マカオ第1号店「ADORES SANDS MACAO」グランドオープン

シグマ設立

独立系メーカー機能保有オペレーターであり、メダルのパイオニアとして業界を牽引。様々なエポックメイキングな商品も開発するも、後年は多角事業の失敗で財務破綻寸前まで追い込まれる

アルゼグループ時代

財務的には救われたもののメーカー系専門オペレーターとして苦戦(減益傾向が続く)

独立専門オペレーターとして再スタート

独立系専門オペレーターとして自由度の高い経営体制を推進。それに加えて、サービス業に特化した人材育成や各種施設展開が可能になった。

また同じく独立系専門オペレーターである株式会社ネクストジャパンホールディングスと資本業務提携を結び、業界発展に寄与する体制を構築

新生アドアーズのスタート

2. 2012年3月期 第2四半期 実績

(1) 2012年3月期 第2四半期 実績



2. 2012年3月期 第2四半期 実績

(1) 新体制について / 方針総括・戦略

“**変革**”

Concept

“**基本に忠実に**”

- ① 財務体質の良化
- ② 収益体質の強化
- ③ 将来への布石

2. 2012年3月期 第2四半期 実績

①財務体質の良化

資本・体制面の変革 ~ Strengthening of capital ~

- ① : 藤澤信義を新代表とした新しい経営体制への移行
事業セグメント毎の担当役員の増員・入れ替えの実施
- ② : 株式会社ネクストジャパンホールディングスを引受先とした
第三者割当増資の実施、
有利子負債の圧縮を最優先にした財務戦略の推進



業界内外の厳しい環境下を耐え抜き、業績のV字回復に
つなぐことのできる強固な経営体制への転換

2. 2012年3月期 第2四半期 実績

②収益体質の強化

収益面の変革 ~ An improvement of profitability ~

- ① : 年俸制導入のほか、不要不急の制度・設備の合理化を推進
- ② : 社内決裁の電子化・一元化によるスピーディーな意思決定、
全社的な意識改革によるコスト削減
- ③ : 若手の抜擢登用を含むマネージャー体制の細分化・変更
社内ジョブローテの推進による社内活性化



従業員の意識改革と決裁(意思決定)のスピードアップを実施
第2第3の「矢(新事業・コーポレートアクション)」を矢継ぎ早に展開できる、
軽快な企業体質の構築

2. 2012年3月期 第2四半期 実績

③ 将来への布石

将来に向けた施策の変革 ~ The change of a measure ~

- ① : 将来を見据えた新規事業の一端として、株式会社ゲオ運営店舗への『カプセル自販機設置・運営事業』の開始
- ② : 新たな試みの橋頭堡として、海外ビジネス・カジノ併設店舗『アドアーズサンズ・マカオ店』を開設
- ③ : 複合介護施設ユニマットそよ風へのAMマシン導入を始めシニア施策を展開、国民娯楽への布石



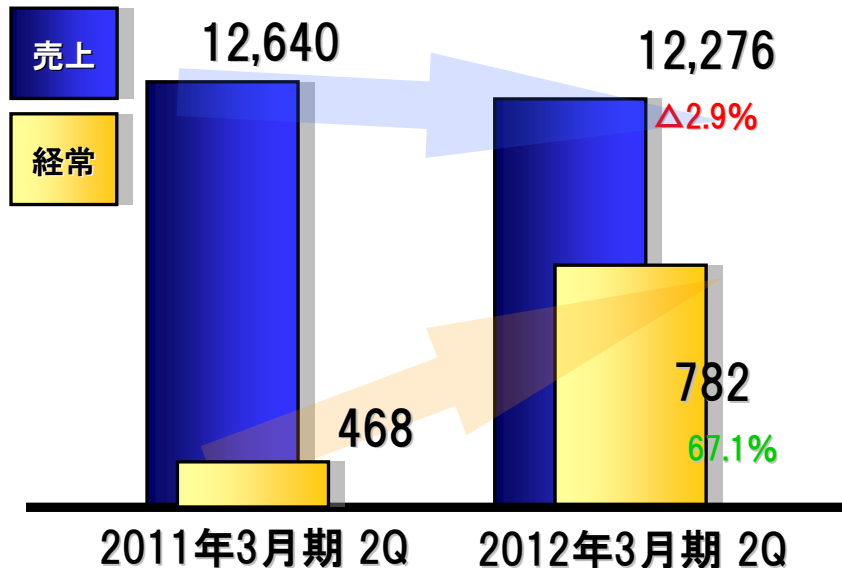
将来を見据えた新規事業の展開と、新サービスの研究・開発による、将来的収益体制の構築に着手

2. 2012年3月期 第2四半期 実績

(2) 全社実績/PL

(単位：百万円)

	2011年3月期 2Q	2012年3月期 2Q	前期差	前期比
項目	実績	実績	(百万円)	(%)
売上高	12,640	12,276	△ 363	△2.9%
営業利益	575	843	267	46.5%
経常利益	468	782	314	67.1%
純利益	185	873	687	371.0%



(減収要因)



主にアミューズメント施設の閉店に加え、レンタル事業や不動産事業の計画的な規模縮小の影響により、前年同期比で△363百万円(△2.9%)と、若干の減収となるものの、概ね想定通りの売上を確保

(増益要因)

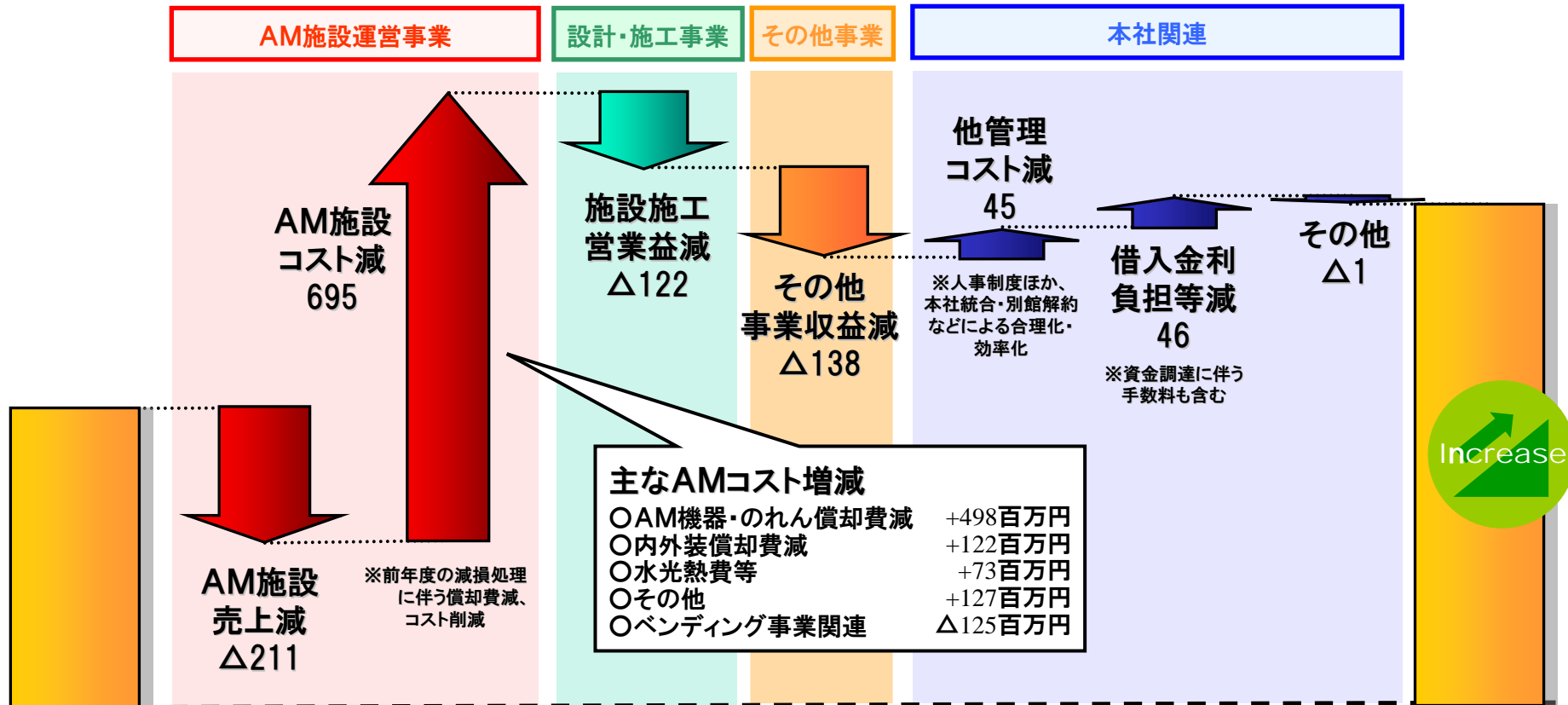


前期特別損失にて計上した不採算資産の評価見直し・廃棄による償却負担の減少に加え、全社的コスト削減、さらに有利子負債の圧縮に伴う支払利息負担の減少により大幅増益

2. 2012年3月期 第2四半期 実績

経常利益分析(前年差)

(単位:百万円)



468

2011年3月期2Q実績

+314百万円

782

2012年3月期2Q実績

2. 2012年3月期 第2四半期 実績

期初予測との差異・実績

(単位:百万円)

2012年3月期 2Q				
項目	期初計画	実績	開示差	開示比
売上高	12,500	12,276	△ 223	△ 1.8%
営業利益	500	843	343	+ 68.7%
経常利益	400	782	382	+ 95.6%
純利益	250	873	623	+ 249.9%

●売上高

設計・施工案件の一部完工案件が10月度にズレ込んだことによるもの。他事業は概ね計画通り。

●営業利益／経常利益

設計施工部門の月ズレ等による利益ショートはあったものの、AM事業での効率投資や光熱費抑制による原価削減(昨年度末の特別損失計上による償却費減は除く)に加え、全社一丸となったコスト削減によって販管費を大幅削減(販管費は昨年度対比で△228百万円)。

更に経常利益では有利子負債の圧縮による金利負担減47百万円が貢献。

●純利益

人事制度変更に伴う特別利益の計上(7月)160百万円に加え、期初見込んでいた閉店に伴う追加コストが想定を下回ったことによるもの。

2. 2012年3月期 第2四半期 実績

コスト削減実施状況(実践内容)

- 年俸制移行に合わせ、利用頻度の低い福利厚生の見直し
→ 保養所の解約を含む、労務費の順次見直し
.....
- 効率的なマシン運用によるコスト削減
→ 個店毎のニーズに合わせた効率的なマシン設置・運用の推進
.....
- 本社施設とAM機器倉庫の統合・解約
→ 2フロアあった本社を1フロアに統合・集約、本社別館の解約、
機器保管倉庫の解約
.....
- 節電対応に向けた運営体制への転換
→ お客様の快適さを保ちつつ、各運営店舗における外部照明や
空調の見直し、LED照明への転換、本社内照明削減等の実施

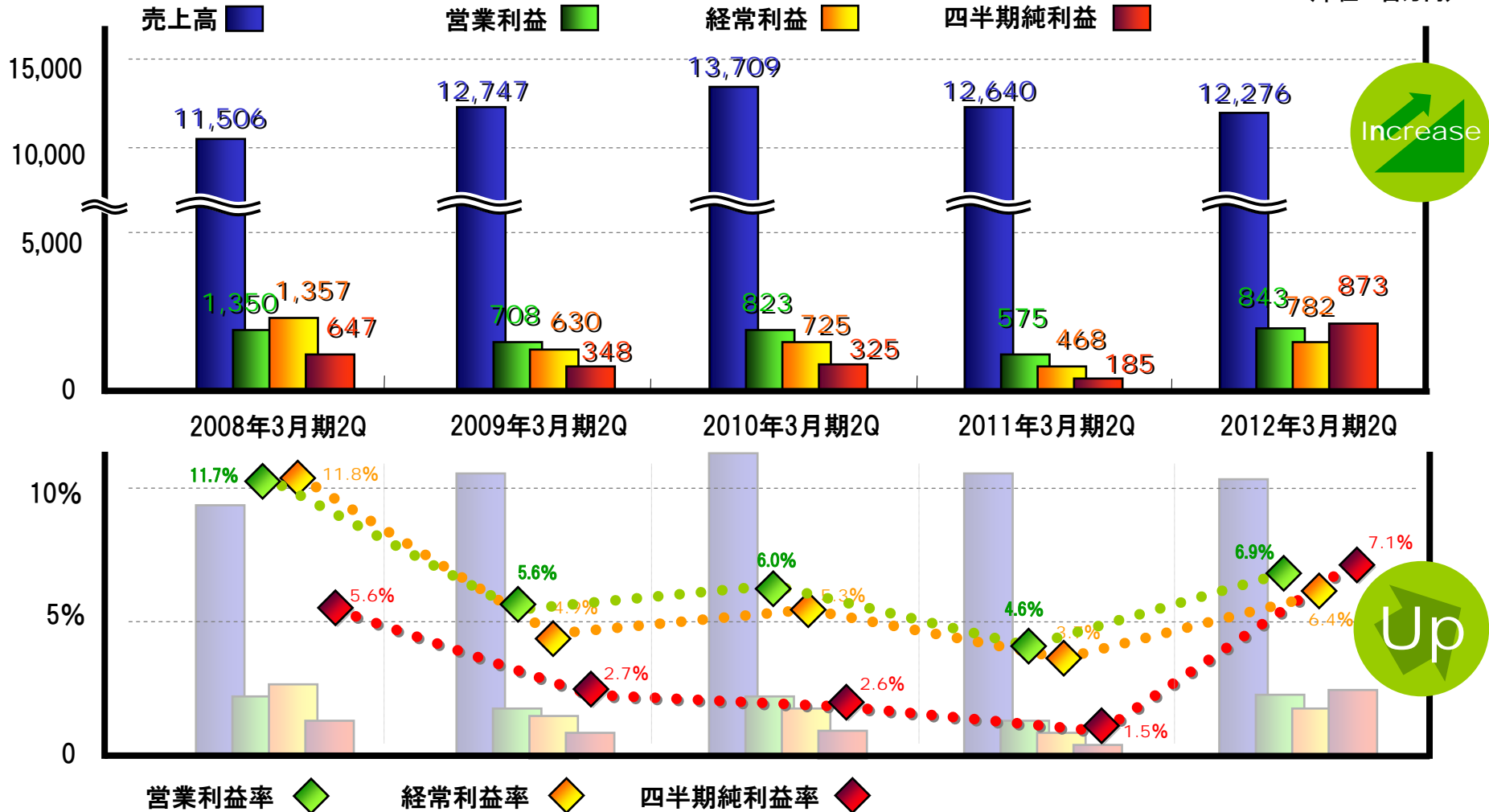


プロフィット部門であるアミューズメント施設運営事業、設計・施工事業、
不動産事業をはじめ、管理部門をも含む全社的な合理化策を推進するなど、
全事業部における徹底したコスト削減を実施

2. 2012年3月期 第2四半期 実績

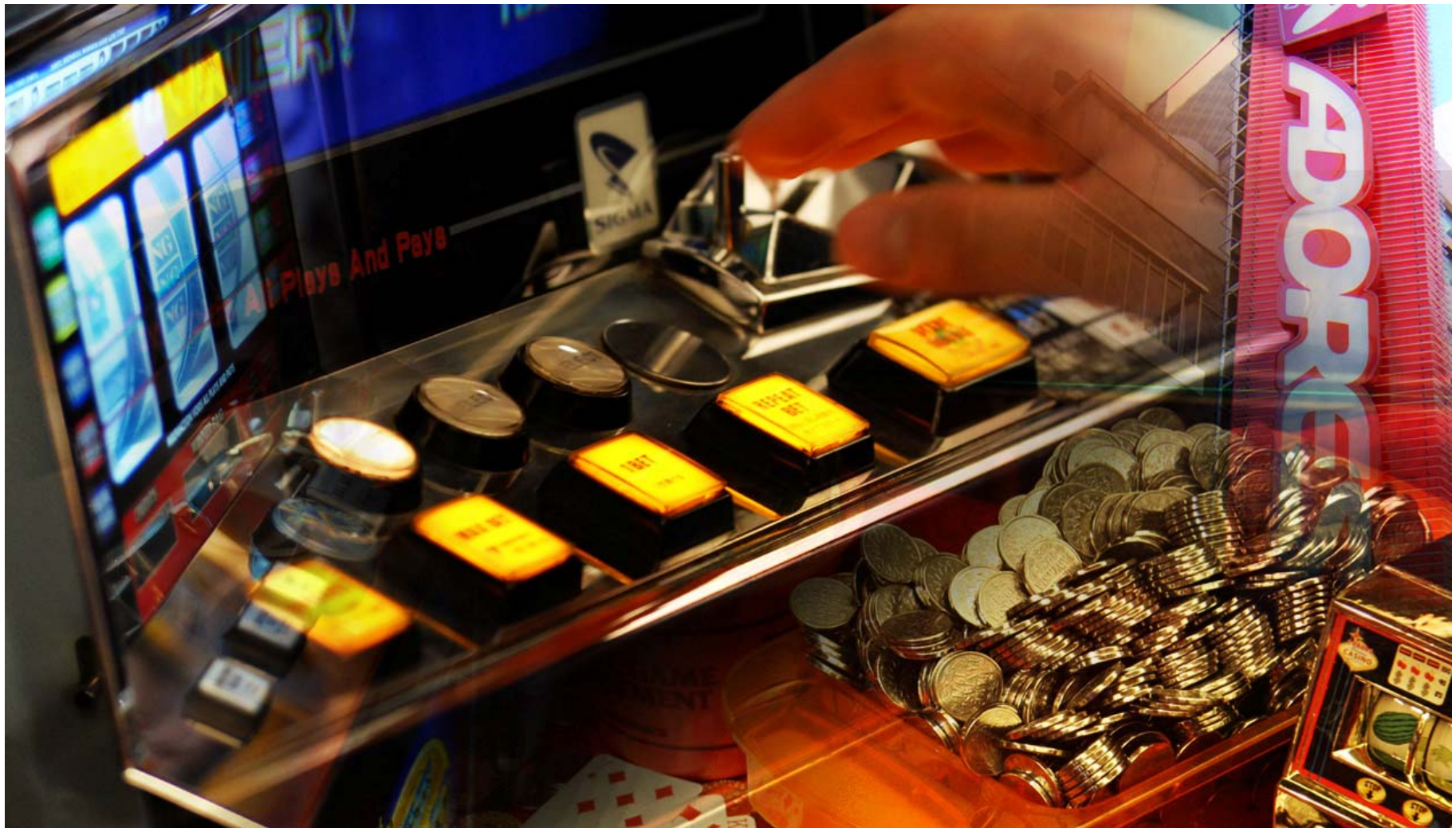
売上推移・各種利益率推移グラフ

(単位：百万円)



2. 2012年3月期 第2四半期 実績

(3) 財務戦略について(BS・CF)



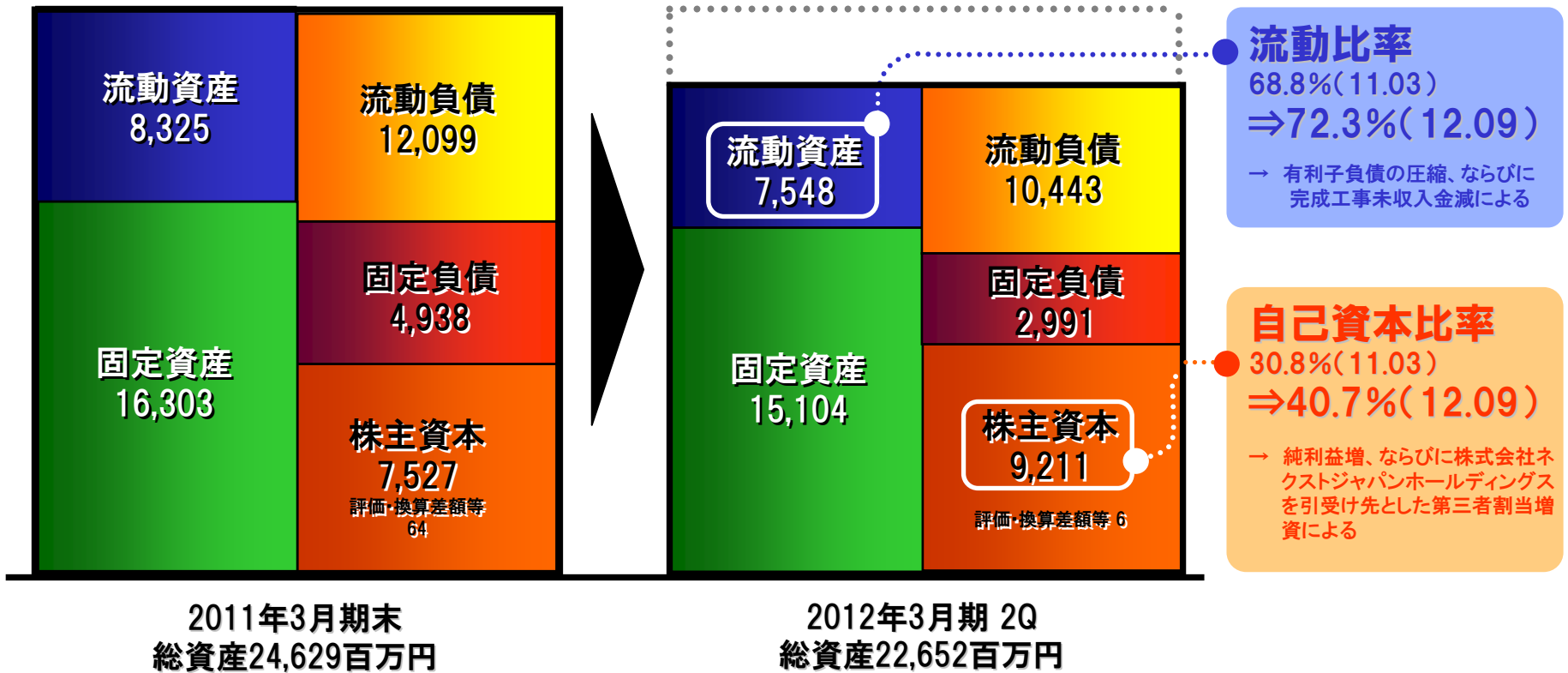
2. 2012年3月期 第2四半期 実績

貸借対照表

(単位:百万円)

前期末の不良資産の評価減・減損・除却に続き

第三者割当増資による資本注入、投資の効率化や資産売却を
 推し進めながら、**有利子負債の圧縮を最優先とする戦略**に転換

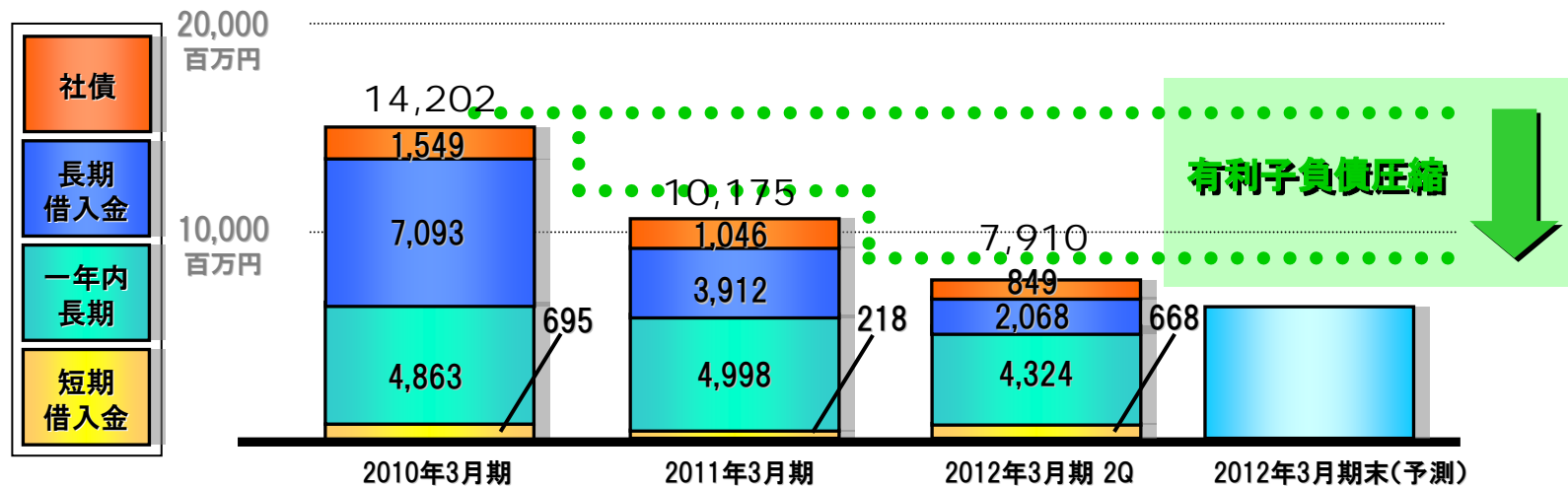


2. 2012年3月期 第2四半期 実績

有利子負債の推移

(単位:百万円)

	2010年3月期	2011年3月期	2012年3月期 2Q
項目	実績	実績	実績
短期借入金	695	218	668
一年内長期	4,863	4,998	4,324
長期借入金	7,093	3,912	2,068
社債	1,549	1,046	849
計	14,202	10,175	7,910

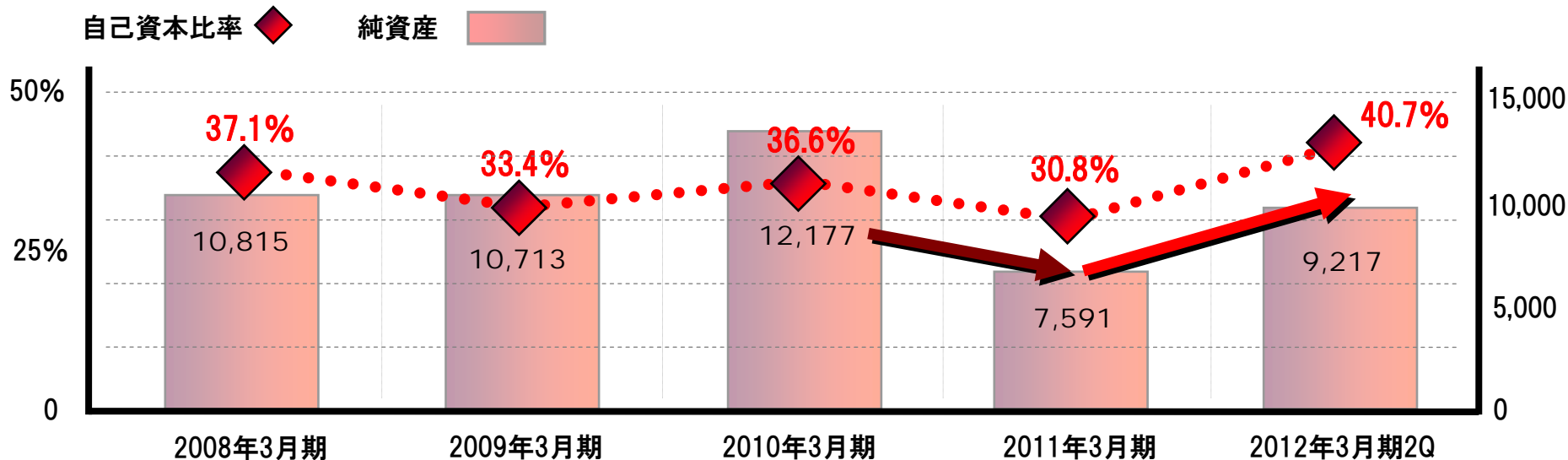


2. 2012年3月期 第2四半期 実績

自己資本比率の推移

(単位:百万円)

前期末の不良資産の評価減・減損・除却による自己資本の毀損に対して
810百万円の第三者割当増資による資本の充実のほか
資本剰余金や準備金を赤字となった利益剰余金と相殺し、
期間収益による財務良化の見える化も実施



810百万円:資本増強
 873百万円:期間収益

2. 2012年3月期 第2四半期 実績

キャッシュフローの推移

(単位:百万円)

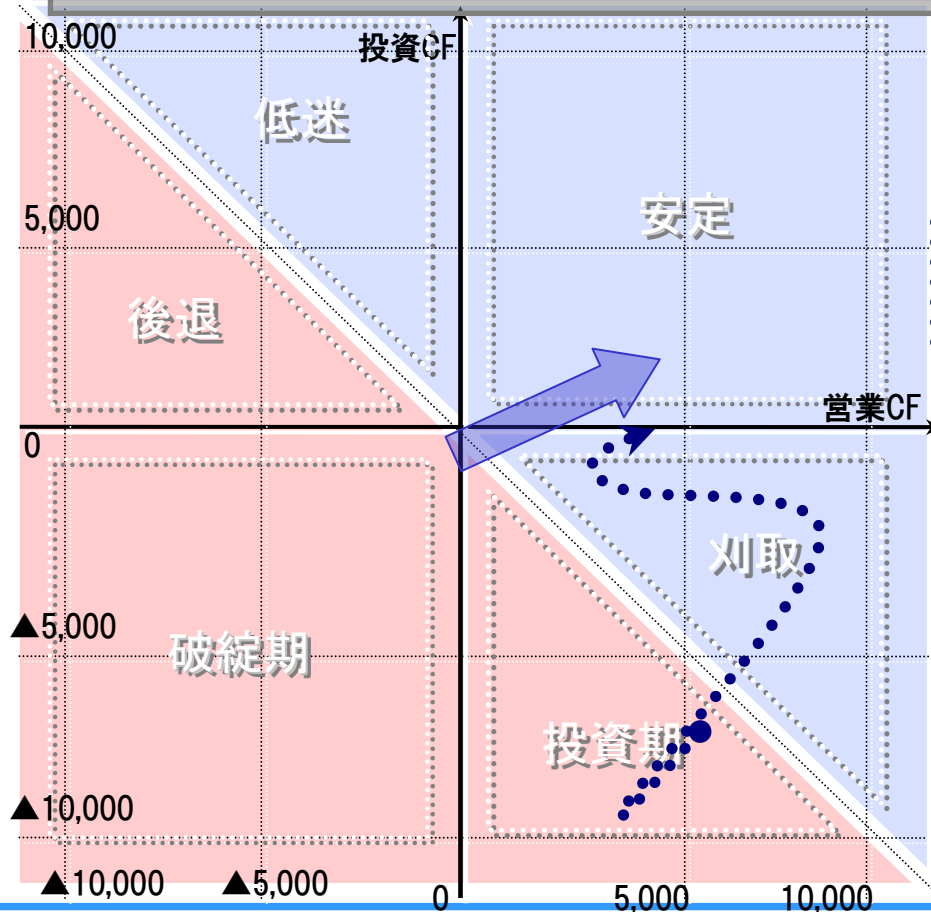
効率的な投資を推進しながらも、安定的な営業CFを確保
急速な借入圧縮の中でもキャッシュポジションは維持

	2011.03 2Q	2012.03 2Q	前期差	
項目	実績	実績	(百万円)	
営業CF	1,087	3,064	1,977	安定的に 営業CFは確保
税前当期利益	297	896	598	
減価償却費	1,929	1,289	△ 639	
売上債権増減	△ 132	1,626	1,758	設計・施工案件の 手形回収進行
仕入債務増減	△ 1,176	△ 1,064	112	
法人税等	△ 75	54	129	
その他	247	262	15	AMマシンの 効率的投資
投資CF	△ 681	△ 1,112	△ 430	借入金圧縮、 ならびに配当の見送り
固定資産の取得	△ 1,107	△ 676	430	
財務CF	△ 1,468	△ 1,785	△ 317	財務戦略を推進しな がら、キャッシュポジ ションは維持
現金等増減	△ 1,062	167	1,229	

2. 2012年3月期 第2四半期 実績

キャッシュフローの分析

マシン厳選・効率投資のみならず、過年度投資分(既存資産・閉店店舗のマシンなど)を活用し、投資CF/営業CFバランスを維持



期末キャッシュフロー5カ年推移

	2007	2008	2009	2010	2011
営業活動による キャッシュフロー	5,636	5,571	4,589	9,031	3,849
投資活動による キャッシュフロー	△ 4,932	△ 7,198	△ 8,729	△ 2,235	△ 1,966
財務活動による キャッシュフロー	△ 849	1,131	387	△ 1,547	△ 5,273

2012.03 2Q キャッシュフロー

営業CF	3,064
投資CF	△1,112

2. 2012年3月期 第2四半期 実績

(4) セグメント別業績推移

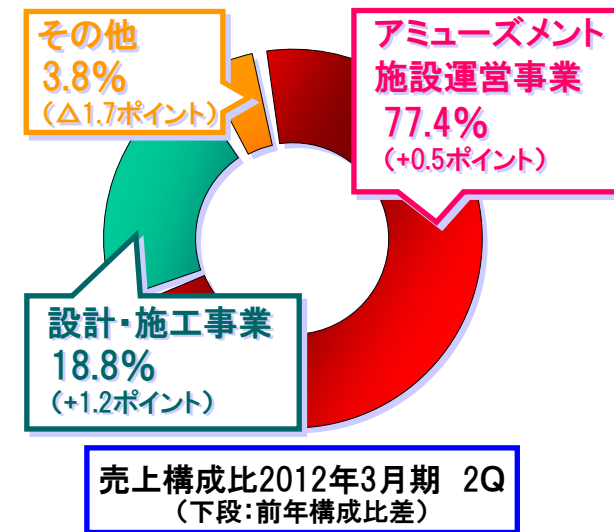
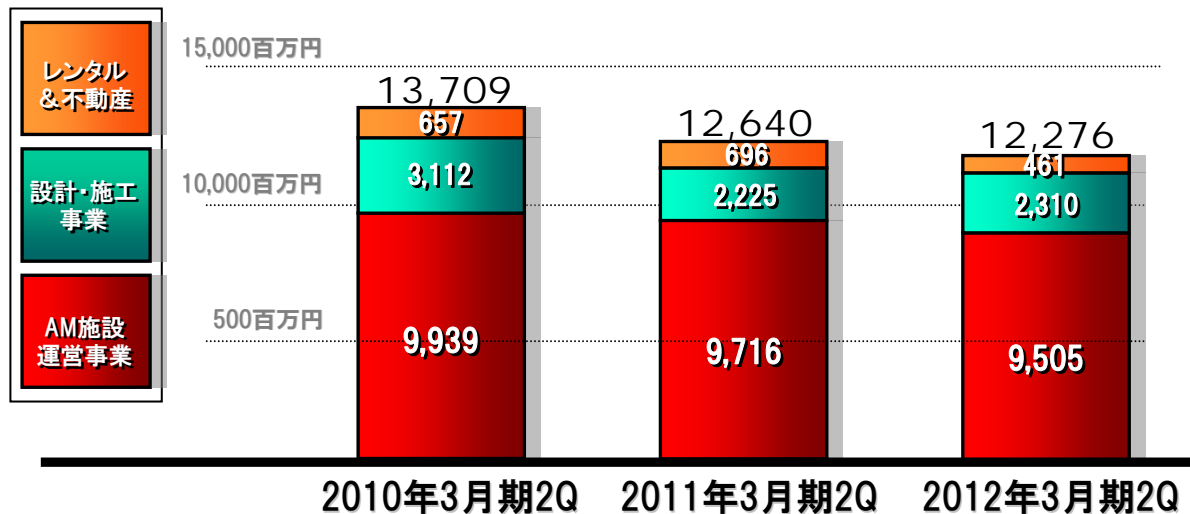


2. 2012年3月期 第2四半期 実績

セグメント別 売上高推移

(単位:百万円)

	2009年3月期2Q	2010年3月期2Q	2011年3月期2Q	2012年3月期2Q
項目	実績	実績	実績	実績
AM運営	10,218	9,939	9,716	9,505
施設・施工	2,094	3,112	2,225	2,310
レンタル	194	155	139	20
不動産	239	502	557	440
計	12,747	13,709	12,640	12,276

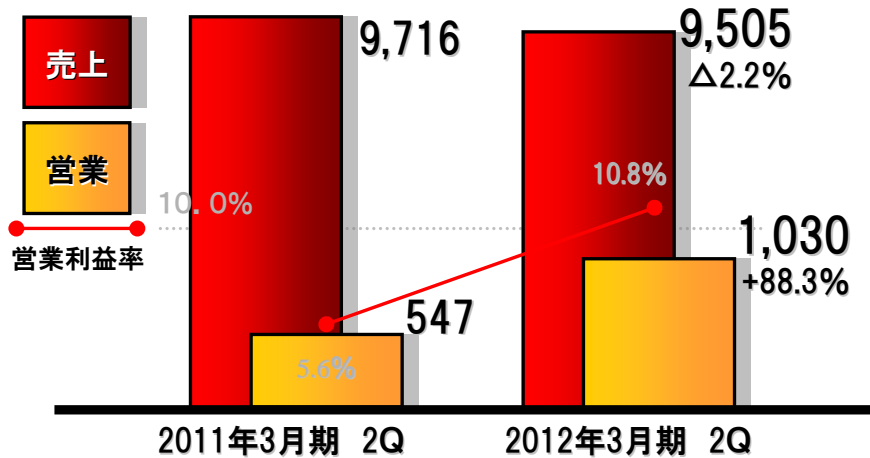


2. 2012年3月期 第2四半期 実績

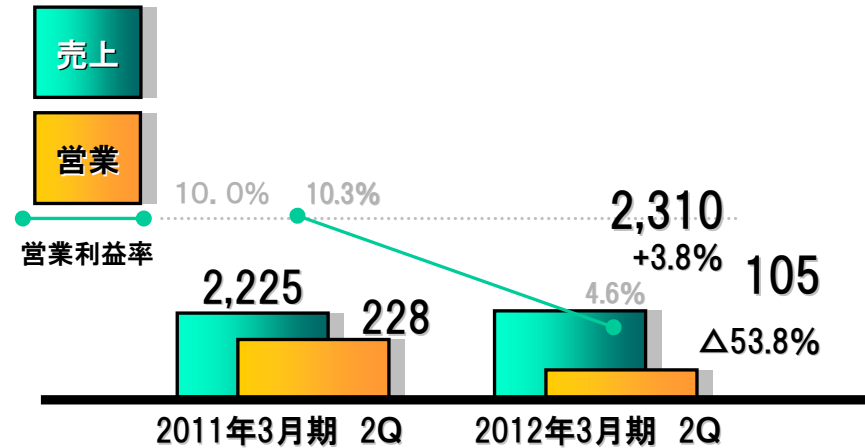
セグメント別 売上・(事業部)営業利益

(単位:百万円)

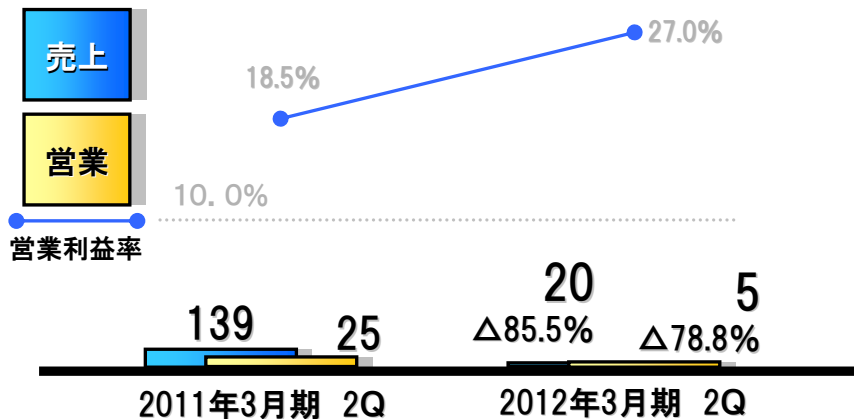
アミューズメント施設運営事業



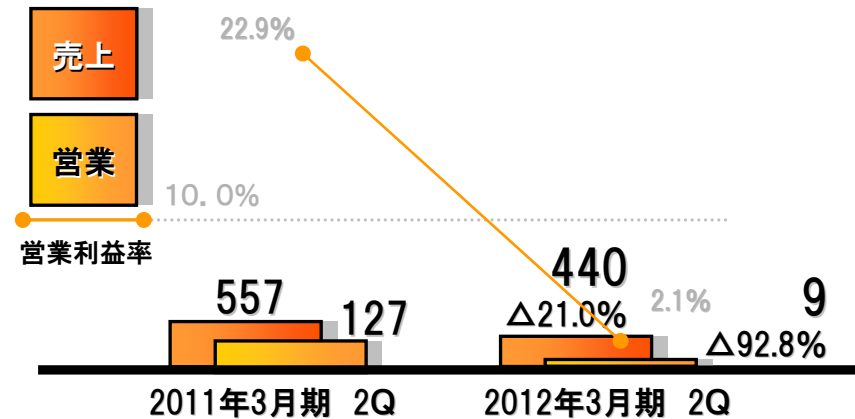
設計・施工事業



レンタル事業



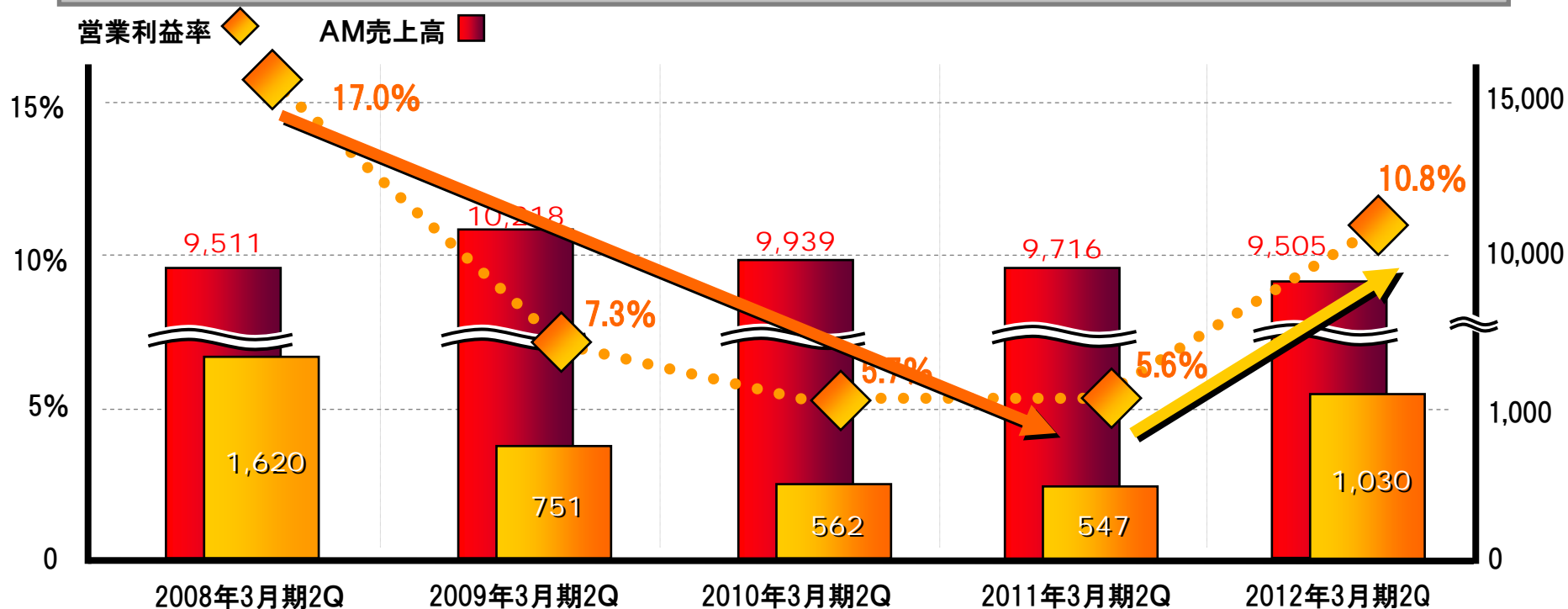
不動産事業



2. 2012年3月期 第2四半期 実績

セグメント別 売上・営業利益率推移 (AM施設運営事業)

各種コスト削減・合理化策推進、不良資産の減損・評価損に伴う償却負担の減少に加え、効率的なマシン投資により、利益率が大幅に良化



2. 2012年3月期 第2四半期 実績

AM施設運営事業 戦略・概況

新規顧客層獲得の継続に加え、節電対策をはじめとした各社会要請に対応、収益を確保できる運営体制の確立と推進

① 集客施策強化

- ONJHD社とのオリジナル景品の研究・開発を含む、プライズ・プリクラ等の強化による他店との差別化
- 地域性をふまえたマシンラインナップの充実



② 新規顧客層(シニア層)への具体的アプローチ

- 株式会社ユニマットそよ風の運営する、複合介護施設へのアミューズメント機器の試験的導入により、具体的かつ感覚的なニーズに向けたダイレクトマーケティングの開始
- メダルゲーム設置店舗における敬老の日イベントを展開



③ “次世代アミューズメント施設”に向けたサービス力強化

- 「接客力+提案力+アプローチ×おもてなしの心」を機軸とした、他余暇産業にも太刀打ちできるサービス力の強化と店内環境の改善
- ゲームに関する奥深い知識を持つ、専門スタッフの育成を開始



2. 2012年3月期 第2四半期 実績

AM施設運営事業 / メディアへの取り上げ

●各種シニア施策

- ・株式会社ユニマットそよ風運営、複合介護施設2拠点への試験的アミューズメント機器導入
- ・メダルゲーム運営店舗全64ヵ店において、2011年9月19日、“敬老の日”に合わせた特別イベントを展開



●海外店舗『Adores Sands Macao店』開設

●メディア露出実績一覧

新聞/雑誌

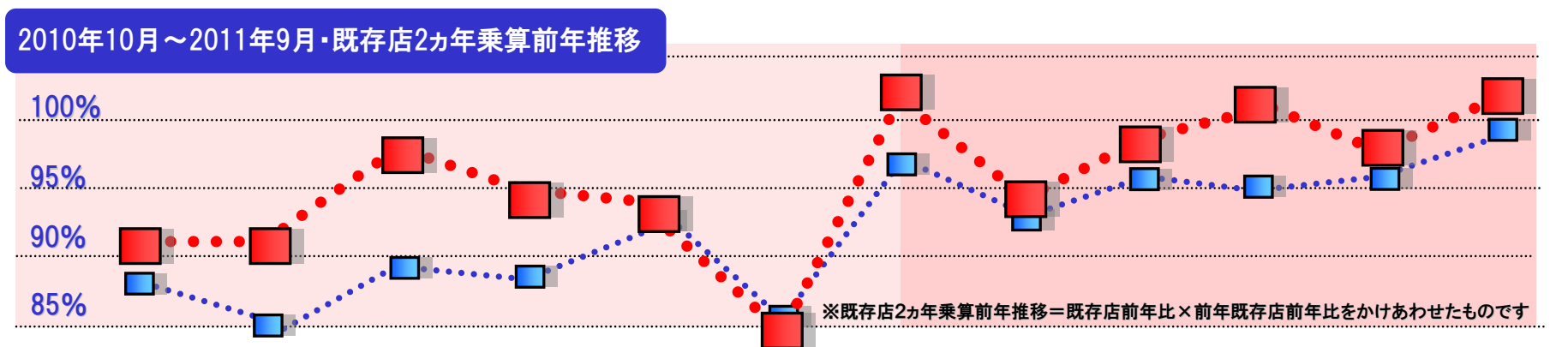
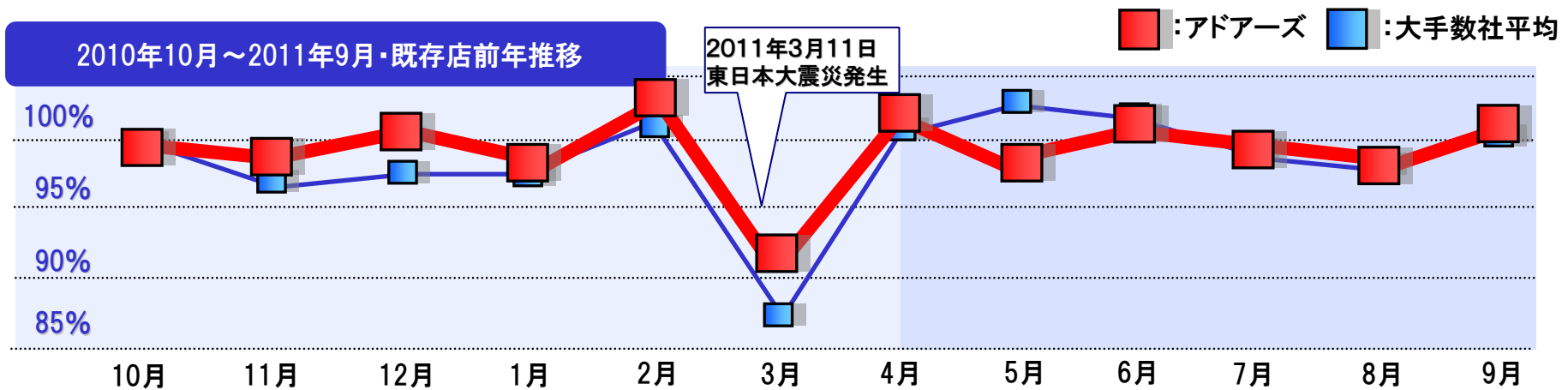
- ・日本経済新聞
- ・日経流通新聞(MJ)
- ・読売新聞
- ・朝日新聞
- ・毎日新聞
- ・日本証券新聞
- ・業界誌「アミューズメント・ジャーナル」
- ・業界誌「アミューズメント産業」
- ・業界誌「アミューズメントジャパン」
- ・流通業界誌「激流」 etc...

テレビ/放送媒体

- ・NHK「ゆうどきネットワーク」
- ・テレビ東京「ワールドビジネスサテライト」
- ・日本テレビ「news every.」
- ・フジテレビ「とくダネ!」
- ・テレビ朝日「スーパーJチャンネル」 etc...

2. 2012年3月期 第2四半期 実績

AM施設運営事業 / 既存店売上高推移



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
既存店前年比	99.7%	98.9%	101.1%	97.8%	103.2%	91.3%	102.0%	98.0%	101.4%	98.8%	96.8%	101.2%
既存店2ヵ年乗算比	90.7%	90.7%	97.4%	94.6%	93.9%	82.9%	101.2%	94.5%	97.2%	101.1%	97.5%	98.8%

2. 2012年3月期 第2四半期 実績

AM施設運営事業 / ジャンル別売上高の推移

(単位:百万円)

- ① メダルゲームはパチンコ・パチスロの伸び悩みにより若干ショート
- ② プライズは人気キャラクター商品の一巡によって現状維持。
全店ベースでは昨年度開設のPJアドアーズ池袋が押し上げ。
- ③ アーケードゲーム(ビデオゲーム)は、人気ゲームのVer. Upが大きく牽引
カード・マスアーケードゲーム(カード排出型・多人数向け)は若干伸び悩み



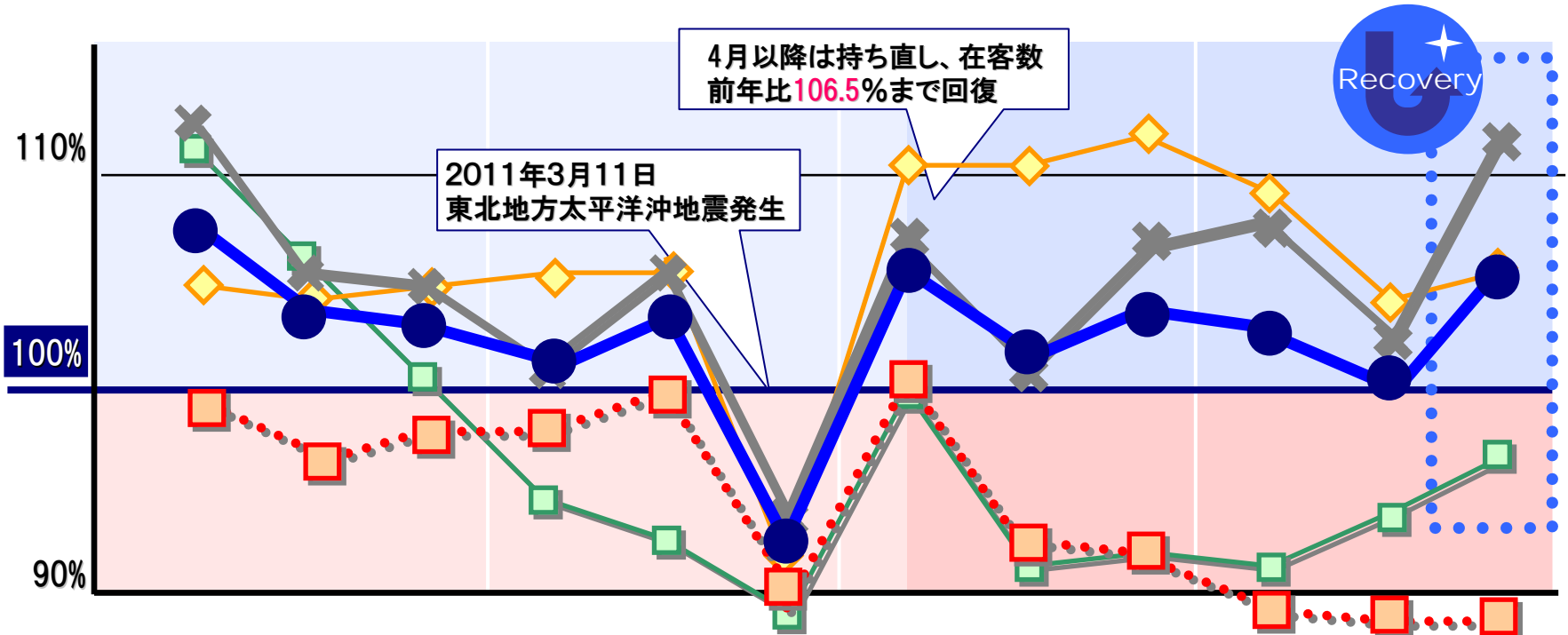
	2011年3月期 2Q	構成比	2012年3月期 2Q	構成比	前年同期差	増減率	既存店 前年比
① メダルゲーム計	4,416	45.5%	4,027	42.4%	△ 389	-8.8%	95.7%
メダルゲーム	3,187	32.8%	3,084	32.4%	△ 103	-3.2%	101.5%
パチンコ・パチスロ機	1,229	12.6%	943	9.9%	△ 286	-23.3%	80.8%
② プライズゲーム	1,942	20.0%	2,063	21.7%	121	6.2%	101.2%
プリクラゲーム(AM自販機)	342	3.5%	315	3.3%	△ 27	-7.8%	96.4%
③ アーケードゲーム(ビデオゲーム)	2,478	25.5%	2,734	28.8%	256	10.3%	107.9%
その他	538	5.5%	366	3.9%	△ 172	-32.0%	—
合計	9,716	100.0%	9,505	100.0%	△ 211	-2.2%	100.2%

2. 2012年3月期 第2四半期 実績

AM施設運営事業 / 既存店ジャンル別在客推移

(前年同月対比)

● 在客合計 ■ プライズ ◇ ビデオ
■ プリクラ × メダル



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
在客数前年比	107.7%	103.5%	102.3%	100.6%	103.8%	92.4%	106.5%	102.3%	104.6%	103.9%	100.7%	105.9%

2. 2012年3月期 第2四半期 実績

設計・施工事業 / 概況

(単位:百万円)

項目	2011年3月期2Q 実績(百万円)	2012年3月期2Q 実績(百万円)	前期差 (百万円)	前期比 (%)
売上高	2,225	2,310	84	+3.8%
営業利益	228	105	△ 122	△53.8%



自社店舗開設で培った「エンターテインメント性」や「効率的な顧客誘導・動線」、「短納期」など、当社ならではのノウハウを活かした提案営業で安定した受注を獲得

(増収要因)



震災影響による工期延長案件をはじめ、中・大型ホールの内外装工事を複数完工した他、各種飲食および娯楽施設等への積極的な営業活動により、前年同水準を確保

(減益要因)



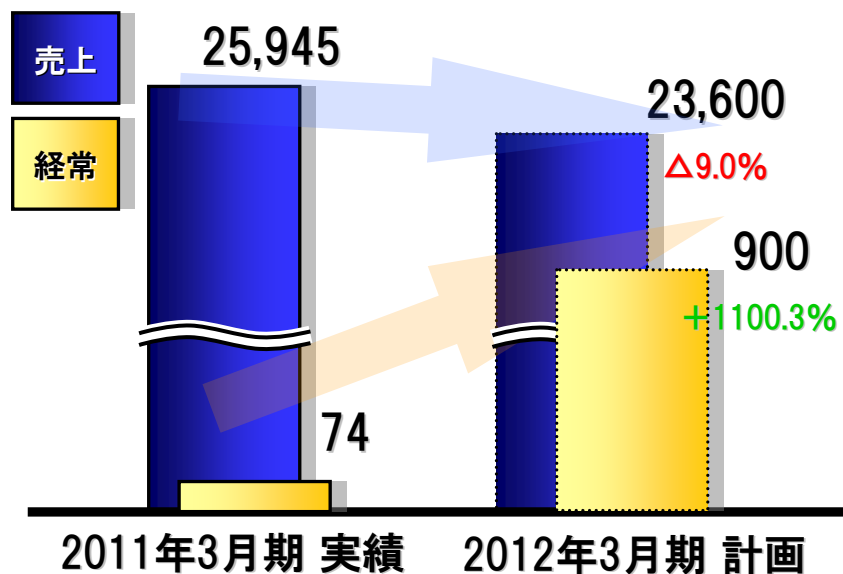
業界全体の競争激化による利益率の低下が収益面を圧迫したことにより減益

3. 2012年3月期 下期計画・方針

2012年3月期・全社数値計画

(単位:百万円)

	2011年3月期	2012年3月期	前期差	前期比
項目	実績	見通	(百万円)	(%)
売上高	25,945	23,600	△ 2,344	△9.0%
営業利益	263	1,050	786	+298.2%
経常利益	74	900	825	+1100.3%
当期利益	△4,197	900	5,097	—



中間期の好業績を受け、内外環境を保守的に見積もった上で、通期見通しを

(期初計画)

売上: 24,000百万円 → 23,600百万円

営業利益: 900百万円 → 1,050百万円

経常利益: 700百万円 → 900百万円

純利益: 450百万円 → 900百万円

へ修正致しました。

3. 2012年3月期 下期計画・方針

2012年3月期 通期数値計画 上期・下期別

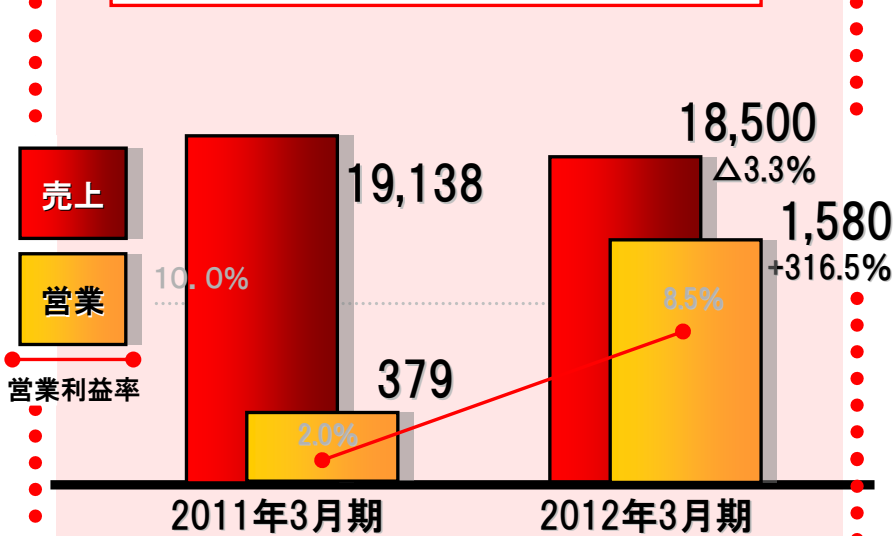
		2012年3月期 上期(実績)		2012年3月期 下期(見込)		2012年3月期(通期)		
		金額	前期間比	金額	前期間比	金額	前年比	売上比
売上高	AM施設	9,505	△2.2%	8,995	△4.5%	18,500	△3.3%	78.4%
	設計施工	2,310	3.8%	1,890	△43.6%	4,200	△24.7%	17.8%
	その他	461	△33.9%	439	△17.0%	900	△26.6%	3.8%
	合計	12,276	△2.9%	11,324	△14.9%	23,600	△9.0%	—
営業利益	AM施設	1,030	88.3%	550	—	1,580	316.5%	8.5%
	設計施工	105	△53.8%	45	△78.3%	150	△65.4%	3.6%
	その他	14	△90.4%	6	△73.8%	20	△88.5%	2.2%
	本社費	△ 307	△13.1%	△ 393	6.3%	△ 700	△3.2%	—
合計	843	46.5%	207	—	1,050	298.2%	4.4%	
経常利益		782	67.1%	118	—	900	1100.3%	3.8%
純利益		873	371.0%	27	—	900	—	3.8%

3. 2012年3月期 下期計画・方針

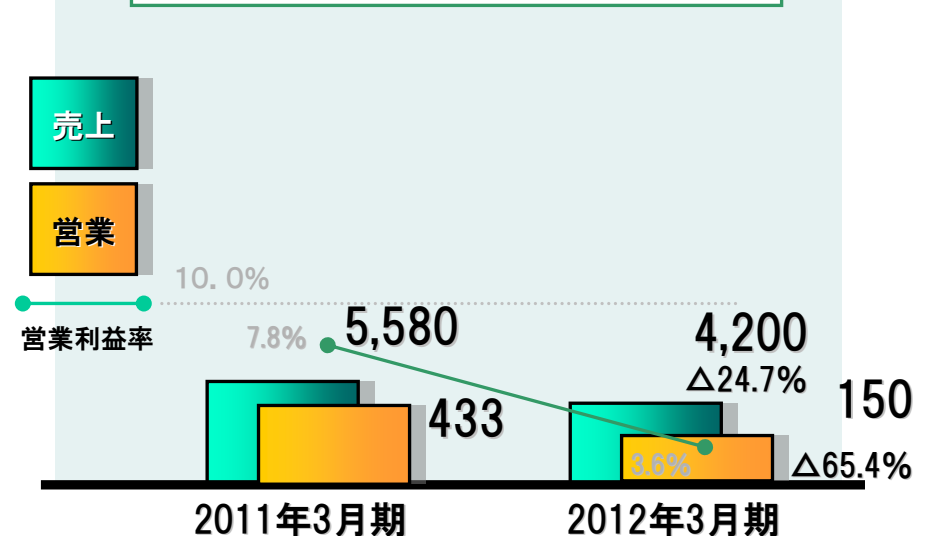
2012年3月期・セグメント別 売上・(事業部)営業利益

(単位:百万円)

アミューズメント施設運営事業



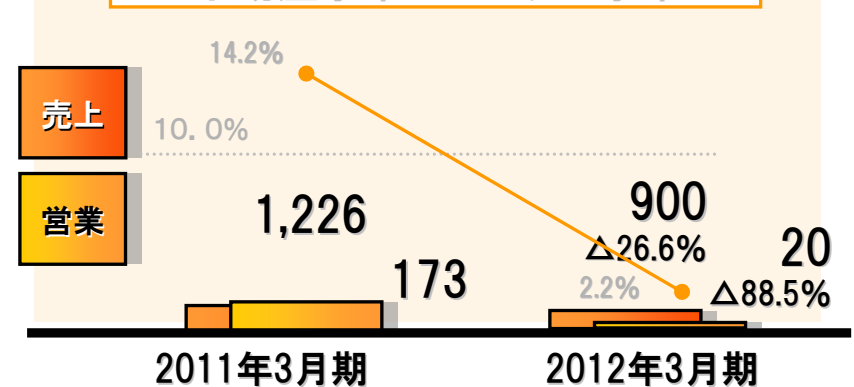
設計・施工事業



バンディング事業(AM事業内へ含む)



不動産事業&レンタル事業



3. 2012年3月期 下期計画・方針

下期戦略／AM施設運営事業

更なる集客力の向上

Base

- 新規顧客層獲得に向けた提案力の強化、ならびに既存顧客層が求む新機種を導入や人気イベントの開催



既存店舗の集中強化

Competitiveness

- 照明・空調等、節電を含む徹底したコスト削減
- 顧客層/地域性に合わせた肌理細やかなサービス



将来の差別化に向けて

For the future

- 接客コンテスト等、継続してサービス力の強化を推進



初心者からコアユーザーまで幅広い層に楽しんでいただける
『次世代アミューズメント施設』の創造と提供

3. 2012年3月期 下期計画・方針

下期戦略／設計・施工事業、不動産、その他事業

設計・施工／不動産、営業力の強化による新規顧客獲得に注力

- パチンコホール、カラオケをはじめ、飲食など近年の多岐に渡る設計・施工ノウハウを活かし、営業力を強化
- 設計・施工／不動産、部門間の垣根を越えた情報連携を図ることで、より確実な案件獲得体制の実現

Reinforce



本社／管理本部

- 管理部門主導によるコスト削減・合理化策を一層加速

Acceleration



3. 2012年3月期 下期計画・方針

下期～来期戦略／その他施策など

新規ベンディング事業の推進

In progress

- 有力企業とのアライアンス強化の一手として開始した、株式会社ゲオ店舗におけるベンディングマシン運営の推進により、約600店舗・6,000台の設置完了（2011年11月時点）
将来的には売上高1,000百万円、営業利益10%を目指す



マカオ店を軸にした海外マーケットでの安定化、ならびに情報収集

- 2011年9月に開設した、当社初の海外店舗「Adores Sands Macao」を起点に、収益貢献のできるサービスノウハウの創造と提供



同業・異業を問わず、開拓姿勢を継続すること、改革姿勢を断行し続けることで、真に業界のリーディングカンパニーたるべく、積極的な経営を展開

4. その他

業界動向～来期収益に貢献する施策について



4. その他

業界動向

市況動向： 震災やユーロ圏の財政不安などから
内需・外需ともに本格的な回復には程遠い状態

業界動向： 『安・近・短』レジャーの代表格として、客層は広がりつつ
あるものの、業界全体は依然、淘汰・再編の機運

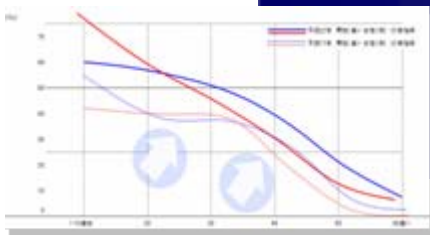
2011年3月期 アミューズメント業界

市場規模 4,958億円 (昨対98.3%)

業界平均既存店前年比 97.3% (※AD98.7%)

店舗数 18,638店 (昨対97.0%)
内、小型店舗数 10,248店(昨対95.6%)

ゲームセンター参加人口 3,000万人(昨対103.4%)



出典：平成22年度アミューズメント産業界の実態調査(日本アミューズメント産業協会)、2011年レジャー白書(公益財団法人日本生産性本部)
なお、小型店舗とはアミューズメント機器の設置台数70台以下の店舗を集計しております

4. その他

当期施策のうち、来期収益に貢献する施策について

閉店による収益改善

店舗閉店による収益改善効果は、実質下期以降から。

2カ店/5月閉店、8カ店/8～9月閉店、2カ店/10月閉店、1カ店/12月閉店予定

⇒ 46期にて当期比200百万円以上の収益押し見込

ベンディング事業、新規設置完了による収益改善

『ベンディング本体』費用は当期一括計上(計画:160百万円)。

当期中に設置完了した場合は、来期以降は当面、発生しない見通し

⇒ 46期にて当期比160百万円以上の収益押し見込

ただし、ゲオ社以外への設置展開を進める場合は、本体設置費用が再度計上されることとなります。



4. その他

今後の方針

財務戦略の推進
数年で実質無借金へ



リアル店舗の強みである
アミューズメント事業の強化



グループを含めたアライアンスの活用

消費の上流から下流までを網羅した
B to Cビジネス への昇華

4. その他

株主還元・配当政策

配当実績	42期	43期	44期	45期
配当/株	3.5円	3.5円	0.0円	未定
配当性向	89.5%	118.4%	— %	— %

震災影響等、不透明な難局を乗り越えることが最大の株主還元と判断し、44期期末配当は一株あたり3.5円を無配(0円)とさせていただきます。



店舗・資産のリストラクチャリングによって、収益を確保できる体勢へと向かっているものの、国際経済情勢の影響などを慎重に勘案すべき段階のため、45期末の配当は現時点で「未定」を継続するものとさせていただきます。

※平成22年4月14日付「株式分割および株式分割に伴う定款の一部変更に関するお知らせ」のとおり、同年4月30日を基準日(44期)として、普通株式1株につき2株の分割をしており、42期・43期の配当は分割を考慮した一株あたりの配当金額に修正して揭示しております。

早期復配に向けて

増資のほか、資本政策について44期株主総会へ付議(決議)

44期の純損失4,197百万円による欠損金3,172百万円を一掃すべく、資本準備金、利益準備金、別途積立金を欠損補填のために振替え、欠損を補填



当社に関する詳しい情報は、HPをご覧ください。

(注) この配布資料に記載されている業績目標等は、いずれも当社が作成日現在入手可能な情報を基にした予想値であり、これらは経済環境、競争状況等の不確実な要因の影響を受けます。したがって実際の業績は、この配布資料に記載されている目標とは大きく異なる場合がありますことをご了承ください。

本資料の問い合わせ先 : アドアーズ株式会社 経営企画部 IR・広報担当 Tel : 03-5623-1115
E-Mail IR@adores.co.jp / URL <http://www.adores.co.jp/>